◎ ふれあい・協力	○ コミュニケーション
○ 信頼関係	○ 達成感

対象学年	
園児	小学生（低・中・高）
	中学生以上

雪灯ろう

プログラムの概要

ロウソクの柔らかな灯は，雪のシェードを通すことで，温もりを伝えてくれます。柔らかな灯に包まれた幻想的な空間を味わうことができます。

ロウソクの灯を見つめながら一日のふりかえりを行う，ナイトハイクと組み合わせる，雪像づくりと組み合わせる等，バリエーションも豊富です。

雪灯ろうは，明るいうちに作り，夜はロウソクの灯を灯すだけにしておくとよいでしょう。

一面の銀世界の夜でしか過ごせない，幻想的な世界に魅せられてみませんか。

所要時間：観賞も含め３～４時間
（作製は１～２時間）

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家

雪灯ろう

1 活動のねらい

・雪国の夜を体験することができる。
・準備やグループの出し物（スタンツ）の練習及び発表を通して，グループメンバーが互いによさを認め合い，協力して活動ができる。
・日常生活やキャンプ期間中の生活をふりかえり，自らの態度を考えることができる。

2 活動のフィールド

・こぐま広場，つどいの広場，ペガスス広場，ふたご広場等の広場
・何人でも可

3 準備品

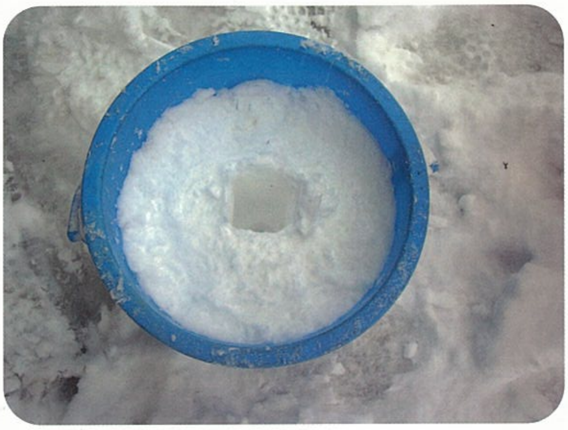
団体・個人で用意するもの：空のペットボトル，ロウソク・キャンドル，ライター，チャッカマン
紙コップ（必要に応じて）
自然の家で用意できるもの：スコップ，移植ゴテ，バケツ

4 活動の手順

（1）事前学習
・雪灯ろうの位置（レイアウト）を事前に考えたり，他の活動と組み合わせる場合は，どのような流れで進めていくかを計画したりしておくとスムーズに活動できます。
（2）青少年自然の家での活動
❶雪灯ろうを作る場所を確認します。
・自分たちが作成した雪灯ろうに，夜，ロウソク等を灯した際の全体集合場所や，グループごとのふりかえりや話し合い等の活動を考え，広場内のおおよその位置を決めます。
・雪灯ろうの他に，中央部分に大きなカマクラや雪像等を作製することもおすすめします。
❷雪灯ろうを作るため，用意した道具を使ってバケツに雪を入れます。

❸ロウソクのスペースを確保するため，バケツの真ん中に空のペットボトルを差し込みます。
（写真は500mlの大きさのもの）周りの雪を押し固めていきます。

❹ある程度固まったら，周りの雪を崩さないよう，ペットボトルを引き抜きます。

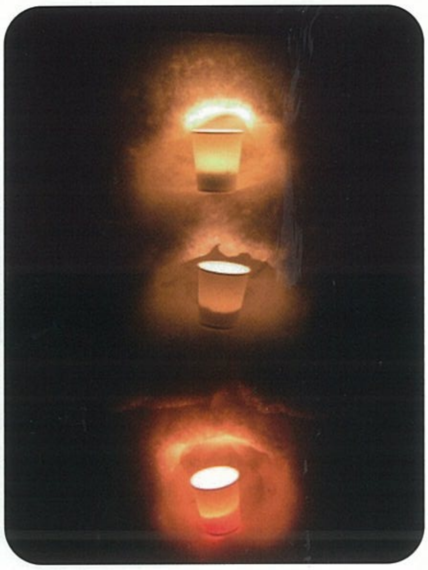


❺バケツをひっくり返し，形を崩さないように
バケツを持ち上げます。（当日の雪質によっては，
バケツから抜けにくい時もあります。）

❻ロウソクを入れるための口を作ったり，空気を
入れるための穴をあけたりして，夜になって雪
が固まるのを待ちます。

❼夜，雪灯ろうの中にロウソクを灯します。
バケツの形にこだわらず，いろんな形のものを作ってみても良いかもしれません。

※円柱形のキャンドルを用いる際は紙コップに入れることで，風で火が消えるのを防ぐことができるとともに，紙コップが和紙のような温かな灯を見せてくれます。



❽雪灯ろうを囲んで，活動のふりかえりをしたり，雪国の話をしたり，その瞬間でしか味わえない，雪の中の時間を過ごします。

❾活動終了後，ロウソクの火を消して回収します。紙コップ等を用いた際は，それらも回収します。
ロウソク等を取り除いた後，雪灯ろうを元の雪に戻します。
名残惜しいかもしれませんが，思い出は心に残し，次に使う人のことを考えて，雪灯ろうを解体し，思いやりのリレー運動をお願いします。

ふりかえりのポイント

❶この活動自体が，ふりかえりとしてプログラムに組み込むことができます。
❷友達の作品を鑑賞して，よいと思ったところを教えてあげましょう。
❸雪と灯の幻想的な空間を過ごして，観賞して，どんなことを感じましたか。

5 活動上の留意点

（1）スコップ等は先が尖っていますので，取り扱いには注意して下さい。
（2）移植ゴテ，ペットボトル等は，雪に埋まったりして見失う恐れがありますので，数の管理をお願いします。
（3）ロウソク等に点灯する際，ヤケドに注意して下さい。
（4）活動のフィールドは，事前に他団体との調整が必要になります。

ねらい別活動プログラム集「雪灯ろう」
発行日：平成20年2月28日
発　行：独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家
http://myoko.niye.go.jp/
所在地：〒949-2235 新潟県妙高市大字関山6323-2
執　筆：瀧　直也（事業推進係）